

食堂で豆乳みそ煮込みうどんを食べる学生たち



食事代の一部を飢餓に苦しむ途上国に寄付するTFT（テーブル・フォー・ツ）運動が14日、山口市桜島の県立大で始まった。中国の国公立大で初。18日までの期間限定で、豆乳みそ煮込みうどんと日替わりのスイーツを販売する。今後はメニューを増やして継続する予定。

【丹下友紀子】

# 健康食で途上国支援

## 県立大でTFT運動

中国の初 食事代20円上乘せ

TFTは、日本で07年2月から活動が広がり、同10月にTFT国際本部（東京）がNPO法人として発足。途上国で1食分となる20円を食事代に乗せずるとともに、肥満や生活習慣病を防ぐため、1食のカロリーは730kcal以下としている。14日現在、日本で参加している企業や団体は206。寄せられたお金は、WFP（世界食糧計画）などを通じて寄付される。これまでに204万4759食が東アフリカのウガンダ、ルワンダ、マラウイの3カ国の学校に届けられた。

県立大では5月から学生が食堂にTFTを導入しようと取り組んだ。メニューなどを考え、11月7日の学園祭で試験的に実施した。今回販売している豆乳みそ煮込みうどんはニンジン、白菜や鶏もも肉などが入り537kcal。270円で、14日は35食が約20分で売り切れた。国際文学部2年の長尾泉美さん（20）と川内あやさん（20）は「味もじっくりしていて、ヘルシーメニューっぽくない。これで寄付できるなら毎日でも食べたかった」。運動に取り組んでいた同学部2年、玉川佑香さん（20）は「TFTはただの募金ではなくて、食べた私たちが健康になれる。多くの人に知ってもらい、食べてほしい」と話していた。